

H29 年度 春期講習会 第2学年アンケート集計

【平成29年度一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業】進路学習指導部

[事業内容]

大学受験に対応できる学力の定着を目指し、本校教諭とのティームティーチングによる授業講座を、長期休業中に実施。

[担当講師]

英語 千頭和 純一 先生

数学 化学 松田 哲士 先生

現代文 高木 一哉 先生

古文 五十嵐 康夫 先生

<英語> 受講人数 40人

内容	よく理解できた		ふつう		よく理解できなかった
評価	①	②	③	④	⑤
人数	13	4	19	5	

感想

- ・ that 節の中には完全文が来ることを理解できました。
- ・ 関係代名詞の訳し方を改めて確認しました。
- ・ in which it ~の中で it の部分を訳すことが大事であり、勝手に単語を省かないことを指摘され、注意して訳をしていこうと思いました。
- ・ the 形容詞は 形容詞な人 と訳すことを前回教わりましたが、忘れていたので再確認できて良かったです。
- ・ 前置詞や副詞の意味の品詞としての重要性や、文をカタマリとして捉えて、文の構造を理解することを確認できた。
- ・ that に前置詞がつく特別な形 (in that や expect that など) を覚えることができた。

<数学> 受講人数 22人

内容	よく理解できた		ふつう		よく理解できなかった
評価	①	②	③	④	⑤
人数	8	3	8	3	

感想

- ・ 解法の手順を確認することが出来ました。範囲を求める→Max, mini を求める→グラフ化する、という流れが重要なので、繰り返し類題を解いていきたいです。
- ・ 4月の前半までには、授業を参考にして解答づくりと公式の証明を終わらせ、センター試験や大学の過去問を解き始められるよう頑張ります。
- ・ 問題演習をする中で、方程式でつまずいたらグラフで考えることで交点を求めることが容易になることに気づきがありました。
- ・ 文字の置き換えを行ったら、すぐに範囲をチェックすることで、ケアレスミスを減らすことを学んだ

ので、繰り返し解いていきたいと思います。

・対数関数や指数関数が複雑なかたちをしていたら、グラフを用いて数学 I の内容に帰着させることで、関数を見やすくすることを学びました。

・相加相乗平均の問題を解いたので、そういった問題をもう一度解きたいと思います。

<現代文> 受講人数 28人

内容	よく理解できた		ふつう		よく理解できなかった
評価	①	②	③	④	⑤
人数	11	7	9	1	

感想

- ・センター試験に準ずるマークの問題を演習したが、選択肢の切り方が難しかった。
- ・傍線部の内容を理解し、本文中の言い換えに気を付けながら読み進めなければいけないと感じた。
- ・時間制限が厳しい中で、選択しなければならないことが講義を通じて感じたので、繰り返し演習を重ねていきたい。

<古文> 受講人数 25人

内容	よく理解できた		ふつう		よく理解できなかった
評価	①	②	③	④	⑤
人数	16	6	3		

感想

- ・センター試験の演習を行い、初めて見る文章を理解しなければならなく、苦戦したが主語と述語をていねい確認しながら読み解いていかなければいけないと感じた。
- ・古文単語が分かれば、選択肢が選べることも気づいたので、忘れているところはもう一度単語帳を見返して、古文単語を定着していきたいと思います。

<化学> 受講人数 10人

内容	よく理解できた		ふつう		よく理解できなかった
評価	①	②	③	④	⑤
人数	8	2			

感想

- ・弱塩基や弱酸の pH の公式、緩衝液について、水の加水分解について学び直しができた。
- ・緩衝液の仕組みを改めて理解することができました。
 $K_h = K_w/K_a$ の導出を、講習会を通して改めて理解することができました。自分で公式を導出することで忘れなくなるので、非常に良い機会でした。

- ・圧平衡定数や濃度の平衡について理解を深められた
- ・中和の途中の緩衝液について理解することができたので、非常に良かったです。